

【全国実施分】学力調査結果の分析による具体的改善策 中学校3年

1 教科に関する調査

《平均正答率全国比》

R 6年度（今年度）結果	
国 語	83
数 学	88

	全国平均正答率を下回った問題（平均正答率の低い問題）	考えられる要因
国語	①話し合いの中の発言について説明したのとして適切なものを選択する。 ②物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したのとして適切なものを選択する。	①意見と根拠など情報の読み取りが曖昧。 ②文の成分の順序や照応がはっきり理解できていない。
数学	① n を整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す。 ② 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する。	① 整数の性質、文字式の活用の内容の定着が不十分であったためと考えられる。 ② 文字式の活用（文字を使った説明）の定着が不十分であったためと考えられる。

2 生徒質問紙調査

※肯定的回答の割合（「学びに向かう力」「主体的・対話的で深い学び」に関連）

質問事項	R 6年度結果	
教科の勉強は好きですか。	国語	88.3%
	数学	70.6%
	理科	—
教科の授業の内容はよく分かりますか。	国語	100%
	数学	94.1%
	理科	—
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	88.3%	

3 具体的改善策

- ① 9月から高校入試まで取り組む（継続する）**学校の組織的な学力向上の取組の改善策**
 （焦点化・重点化1～2点）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 6限目後のドリルタイムでは新研究による入試対策に取り組み、特にCの生徒に対して見守り、直接指導を行う。 ○ 5教科の授業では5分間ドリルや単元末テストでQubenaに取り組む。

- ② 9月から高校入試まで取り組む、国語・数学における**授業改善・学習定着状況の把握・補充学習の改善策**

	授業改善	学習定着状況の把握	補充学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元テスト（読み取り問題を増やす） ○ 単元に1回以上、自ら考えをまとめ表現する場、他と比較・検討する場を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元テスト ○ データベースの活用（長文問題の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種テスト結果より、弱点補強問題の実施
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業開始5分間問題の内容の見直し ○ 単元に1回以上、自ら考えをまとめ表現する場、他と比較・検討する場を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元テストの実施 ○ 確認テストや実力テスト、週末課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題データベースの活用 ○ 各種テスト結果より、弱点補強問題の実施